

政府は28日付で2025年春の褒章を発表した。県内の受章者は男性4人、女性2人の計6人。公共の事務に尽力した人に贈られる藍綬褒章が3人、農業や商業、工業などの業務に精励した人に贈られる黄綬褒章が2人、ボランティア活動に従事した人に贈られる緑綬褒章が1人だった。県内受章者の功績や喜びの声を紹介する。

新垣 安伴さん(71)

緑綬 社会奉仕活動



「人は世の中に協力して、初めて人間になれる」。幼少時に、伊平屋島の曾祖母・新垣力ナさんに掛けられた言葉だ。浦添市宮城の市道や、太平特別支援学校バス停周辺の花壇整備をはじめとした、環境美化活動ボランティアを長年続ける。2015年に国土交通大臣表彰(道路美化)、23年度に県緑化推進委員会の緑化コンクールで緑化功労者表彰を受けた。

愛情と手間惜しまず

緑化活動に加え、芸能を通じた子どもの居場所づくり、捨て猫の保護、交通遺児育成会への寄付など、自らの時間を惜しみなく周囲にささげた。活動のモットーは「愛情をかける。手間暇をかける。お金もかける」。両親や子どもたち、活動協力者らへの謝辞を述べながら、「彼女の協力がなければ、今の自分はない」と、活動をそばで支えてきた妻の清子さん(71)へ惜しみない感謝の意を表する。「たまたま自分が選ばれた。受章は、もっと頑張れと背中を押された気持ち。地域の、みんなのために頑張りたい」

あらかき・やすとも 環境美化奉仕者。浦添市安波茶3の33の6